

平成 26 年 12 月 21 日

関係団体各位

新潟県鍼灸師会
内田 智康

「県内あはき師に関わる学術講習会・研修会の情報共有等のご提案」

1. 問題点・背景・現状分析

- ①各会で講習会,研修会の情報が共有されていない。
 - a. 日程,場所,内容などが重複していることがある。
 - b. 他会の講習会,研修会に出席できなくなる。
 - c. 出席者が割れて、減ってしまう。
 - d. 事前に日時や場所や内容を重複させない工夫がほしい。
 - e. 類似する内容であれば、共催するほうが合理的。
 - f. 重なったなら、相互に表敬訪問したり名刺交換してもよいはず。

- ②新潟には複数の小規模な会が散在する。
 - a. 各会の質は高い。
 - b. 相互に仲が悪いわけでもなさそう。
 - c. 各会の垣根を越えた情報共有があってもよいはず。

- ③新潟県全体的に見て
 - a. (県内に限った問題ではありませんが)、業団加入率が低い。
 - b. 有資格者を全体的にとりまとめる仕組みが無い。(鍼灸 1500 名超?あま指 1000 名超?)
 - c. そもそも県内の有資格者の総数が把握できていない。
 - d. 活動が新潟駅周辺と長岡駅周辺に集中して偏っている。
上越や魚沼,十日町,津南などからの参加が少なく、人材が活用できていない。
広く県民全体に貢献はできていない状況である。
 - e. 行政や他の団体と対峙する際に、集団として集まることができていない。
 - f. 情報共有のための連絡会は、当然、人数的には大きなものになる。
県内の関係者を取りまとめる存在になってゆく可能性に期待したい。

2. 目的・主旨

- ①各会で講習会,研修会等の情報を共有し、前項の問題点を解消する。
- ②共有された情報を各会の会員に伝達する。
- ③共有された情報を一般にも公開する。
- ④情報共有に参加する団体を拡大する。
- ⑤全く団体に所属していない有資格者とも接点を持てるようにする。
- ⑥全体の人数を大きなものにしてゆき、情報共有効果を高める。

3. 提案内容(作業プラン)

第1段階

実務担当者同士が情報共有し、非合理的な状況を減らす。各団体の研修,講習,講演(,役員会,総会,懇親会,その他各種行事)の情報を事務局長レベルで恒常的に情報共有する。

方法=ネット,FAX,郵便

留意=この段階だけで終わると、時間とともに形骸化してしまう恐れはある。

第2段階

会員のレベルで他会の活動を認知できるようにする

事務局長レベルで共有する情報を、各団体の会員に伝達する。

方法=各会ごとに任意。

補足=この時点で、全体の人数を把握する。

第3段階

情報共有範囲を有資格者以外にもひろげる。共有する情報を、ネット上で一般公開する。双方向型の情報交流の場も設け、意見を集める機会も作る。

方法=Web サイト,掲示板,メルマガ,SNS(Facebook,LINE,Twitter)。

とりあえず全部やってみて、支持されたものを残してゆく。

方針=郵便,FAX等の費用をかけず、金銭の動きを発生させない。

組織としての煩雑な事務作業を作らない。

できれば、無償サーバー提供者(またはスポンサー)を探す。

第4段階

情報共有対象を拡大する。養成学校関係者,業者,団体未加入者,柔整主体の有資格者,市町村単位の業団,NPO,日マ会,電話帳,ネット検索など

4. 具体的な目標設定

とりあえず全体の人数として300名。将来的には…

5. 直近の課題(=お願いしたいこと)

①各会から担当者(=連絡会委員)を選出していただきたい。

②連絡会の名称を決めたい。

案1=新潟鍼灸マッサージ連絡会

案3=新潟あはき連絡会

案2=新潟県鍼灸マッサージ連絡会

案4=新潟県あはき連絡会

案5=その他

6. 今後の予定

各会から選出された委員で前述の「作業プラン」を検討し、スケジュールを立てて、実行し、評価&検証してゆく。

以上